

総来場者数2万人超える

マレーシア国際家具見本市



オープニングセレモニーで挨拶をするタン・チン・ホワット社長

マレーシアの首都、クアラルンプールでマレーシア国際家具見本市 (Malaysian International Furniture Fair = MIFF) が3月1日(火)〜5日(土)の5日間にわたって開催された。17回目を迎えたMIFF2011は、クアラルンプールのプロ・ワールド・トレードセンター (PWTC) とクアラルンプール・コンベンションセンター (KLCC) の2会場で開催された。出展者数は473社 (マレーシア国内からの参加企業は319社、他154社は海外11カ国からの参加)、総来場者数は2万88人

(マレーシア: 8601人、海外: 6502人) (140カ国より) 招待客4985人) となった。来場者 (招待客を除く) の地域別内訳は東南アジア21.4%、ヨーロッパ14.5%、極東13.4%、中東11.2%他となった。昨年と比べてみると、出展者数は約100社、海外からの来場者数は約3000人の減少が見られる。会場数が一つ減ったことによる出展者数の減少は当然と考えられるが、海外からの来場者数のマイナスはやや憂慮する点であろう。ヨーロッパのメディアの一人は「世界的な経済不況が

長引いている中、お金と時間がかかるマレーシアまで行くのは難しいという人は多い」と話した。だが、総来場者数が前年とほぼ同じであったことや、約100社の出展者数の減少にも関わらず海外の出展者数が10社増えたこと等を考えると、MIFF出展によるメリ

ットの高さがマレーシア国外でもしっかりと認識されていることが伺える。MIFF近年の売上高は2008年6億9千万米ドル、09年7億1千万米ドル、10年7億5千5百万米ドルと、毎年前年を上回りに続けており、今年の売上高は8億米ドルに達

するとMIFF側では予測をしている。また、毎年恒例のメインイベントである3つのアワードの表彰は、MIFFの個性と価値を構築させている。アワードの内容は、デザインや革新性に優れた製造業者に与えられる「フアニチャール・アワード」



2つの会場の展示面積は合計約8万m²。写真はPWTC会場



MIFF・オープニングセレモニー(上)と会場内(下)



マレーシア国際見本市

MIFFレポート

3月上旬にマレーシアで催されたMIFFでは、開催3日目に3つのアワードの表彰が行われた。MIFFが近年特に力を入れている「アイディエーション・アワード」は、25歳以下のデザインや建築を学ぶ学生の作品を対象としており、若い才能を発掘するとともに、家具業界に新鮮なアイデアを提起する画期的なアワードとなっている。

今年のテーマは「新しい都市生活、革新と持続可能性」。応募者には、限られたスペースに住む单身者用の家具の提案が求められた。220名の応募作品の中から11名の作品

が最終選考に残り、開催期間中、会場内に展示された。

最終選考に残った作品は、学生らしく个性的な外見を表現しつつ、一つの家具で何役もこなすといった機能性を持つ、今回のテーマに沿ったものが多く見られた。テーブルやラウンジチェア、ベッドにもなる変幻自在のマットレスなどの3点が受賞した。奇抜なアイデアや個性よりも、利便性や商品化を考慮した際の有望性が重視されたと思われる。

優れたデザインや革新性に送られる「ファニチャー・エクセレント・アワード」では、樹種の異なる木を升目

の一枚板に仕立て、ベッドヘッドや鏡の枠に用いたNew PK社が金賞を受賞した。

製品やその会社の特徴を見事に表現したブースに与えられる「ベスト・プレゼンテーション・アワード」では、木を床と壁一面に張り巡らせてブースを構成したSJI Industriesが金賞を受賞。ブース展開にそれほど力を入れてない企業がまた多いと言わざるをえない中、木の個性と自社の主張をうまく組み合わせる存在感を見せつけた。

MIFF次回開催

2012年3月6日
(火)～10日(土)



アイディエーション・アワードの展示会場



ベスト・プレゼンテーション・アワード金賞受賞のブース